

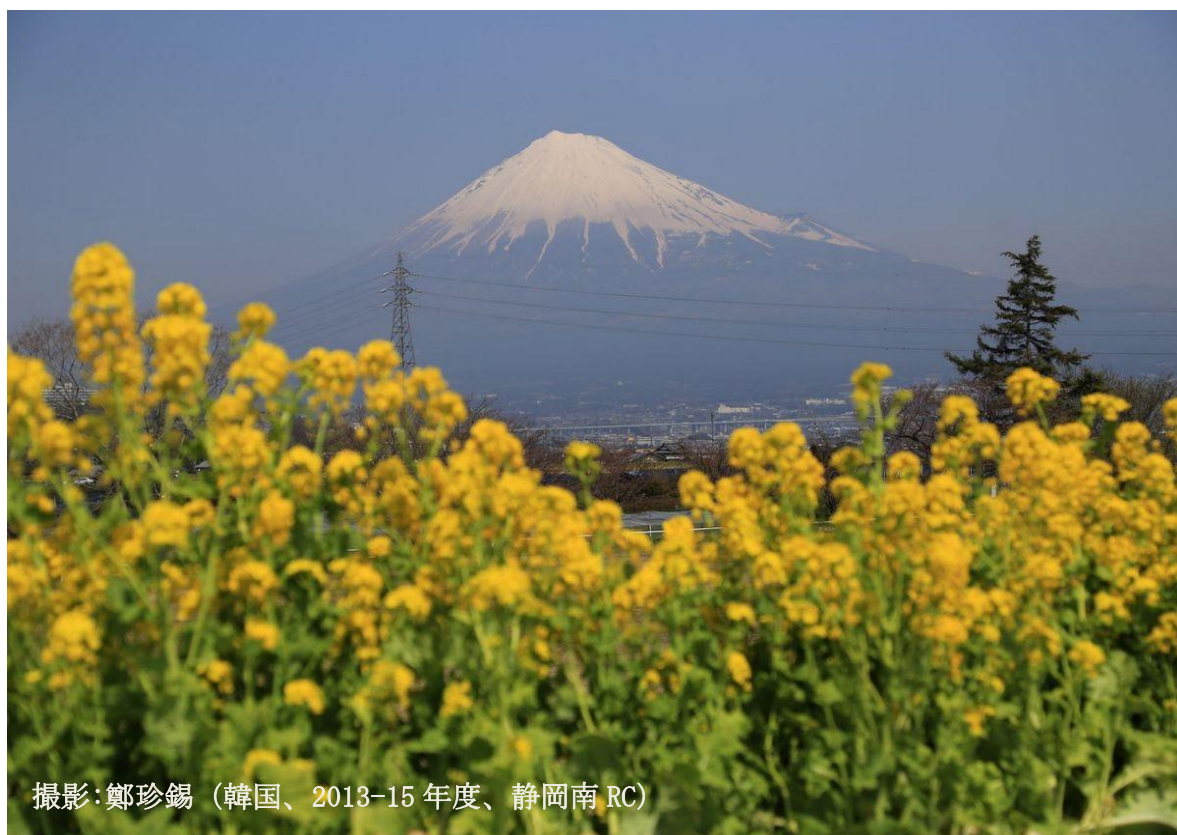


国際ロータリー第 2620 地区(静岡・山梨)

米山記念奨学生学友会

会報 Vol.4 2013-14 年度

設立5周年記念特集号



撮影:鄭珍錫 (韓国、2013-15 年度、静岡南 RC)

2014 年 5 月発行

目 次

1. 「設立 5 周年記念特集号」の刊行にあたって・・・・・・・・・・2620 地区米山学友会会長 上野 佳子
2. 大きく羽ばたく学友会へ・・・・・・・・・・ロータリー米山記念奨学会理事 勝山國太郎
3. 米山記念学友会設立の頃・・・・・・・・・・2620 地区パストガバナー 牧田 静二
4. 第 2620 地区米山記念学友会に寄せて・・・・・・・・・・元地区米山記念奨学委員長 坂本 茂晴
5. 米山記念学友会 5 周年に寄せて・・・・・・・・・・2620 地区パストガバナー 中山 正邦
6. 2620 地区米山記念学友会設立 5 周年を祝して・・・・・・・・・・元地区米山記念奨学委員長 遠藤 一郎
7. RID2620 米山記念学友会設立 5 周年のご祝詞・・・・・・・・・・2620 地区ガバナー 志田 洪顯
8. 米山記念学友会設立 5 周年祝辞・・・・・・・・・・長泉 R C 会長 渡邊 富夫
9. 学友会創立 5 周年に寄せて・・・・・・・・・・地区米山記念奨学委員会委員 小野 毅
10. 鎮魂と希望の桜 被災地に植樹・・・・・・・・・・三島 R C 山岡 修一
11. 「水を飲めば その源を思う」・・・・・・・・・・2620 米山学友会副会長 篠原 曉恵
12. 交流を大切にしておける未来へ・・・・・・・・・・同 理事 王 明永
13. 心を開くことの大切さを学んで・・・・・・・・・・同 学友 応 靈麗
14. 日本のお父さん、お母さんたちへ・・・・・・・・・・同 学友 マイ ホン ティ
15. 日本での思い出を胸に・・・・・・・・・・同 学友 李 烏雲格日樂
16. いつかミャンマーに日本語学校を・・・・・・・・・・同 学友 ティン ザーラ
17. 福島で学んだことを心に・・・・・・・・・・同 学友 李 優英
18. 遣唐使のような架け橋に・・・・・・・・・・同 学友 蔡 遣
19. 活動を通じて広い視野をもつ・・・・・・・・・・同 米山奨学生 范 偉達
20. 学友会 5 年間の活動記録（年表、写真、歴代理事会一覧）

1. 「設立 5 周年記念特集号」の刊行にあたって

第 2620 地区米山学友会 2013-14 年度会長

ウ エ ノ ヨ シ コ

上野 佳子（中国、2000-02 年度、東京臨海東 RC）

RI 第 2620 地区米山学友会設立 5 周年を、会長在任中に迎えることができましたこと、誠に嬉しく思っています。

振り返れば、私は東京で大学院在学中にロータリアンの皆様のお世話になり、その後静岡県に転居しましたが、2620 地区にはまだ学友会はありませんでした。ある日、一通のメールが届き、学友会が設立されることを知りました。早速、入会し、設立総会にも出席しました。

以来、通常総会や地区大会など様々なイベントに参加しました。さらに一昨年、会長になってからは、地区ガバナーや米山記念奨学委員会の皆様のご指導、ご支援を頂きながら、学友の仲間たちと、親睦交流やボランティア活動などに取り組んでまいりました。

とくに昨年 2 月の東北被災地への復興祈念植樹を契機に、2520 地区（宮城・岩手）の学友会と交流をさせていただき、本年も 4 月にも再訪問いたしました。今後は他地区の学友会とも有意義な交流活動を進めていきたいと思っております。

この会報「設立 5 周年記念特集号」の発行に際して、設立当初からご支援いただいたパストガバナーをはじめ、多くのロータリアン

の皆様よりご寄稿をいただきました。この場をお借りして御礼申し上げます。沢山の励ましやご意見は、私たちの未来の糧にいたします。多くの方々の熱い思いとご尽力によって設立されたこの学友会を、仲間たちとともに地道な活動を通じて、さらに活性化させたいと考えております。

米山学友会は、学友（元米山奨学生）と現役奨学生によって組織されており、現在、日本では 31 団体、海外では韓国、台湾、中国、タイ、ネパール、モンゴルの 6 団体の学友会があります。

私たちは、これからも地区ガバナーを初め、多くのロータリアンのご指導のもと、国の内外にわたる学友たちとの絆を大切にして、キラリと光る存在になることをめざしたいと思います。

学友会のさらなる発展のために、引き続き、ご指導、ご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

なお、今回、掲載に間に合わなかったロータリアンの皆様には、次号以降、随時、ご寄稿頂き、掲載させていただきたく存じます。

2. 大きく羽ばたく学友会へ

公益財団法人 ロータリー米山記念奨学会理事

R I 第 2620 地区アドバイザー

カツヤマ クニタロウ

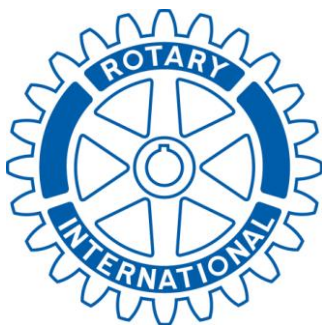
勝山 國太郎（静岡東 RC）

当地区の米山記念学友会は、現在日本国内にある 31 の米山学友会の一つであり、2009 年 3 月 1 日の誕生にして、本年は大事な節目となる創立 5 周年を迎えられたのである。

この間、現 上野佳子会長ならびに理事会メンバーを中心に学友が結束し、今後は地区内で役立つボランティア活動だけでなく、自己研鑽も重ね、地区外に向けた素晴らしい活動計画を明示されていることに着目し、必ずや大きく羽ばたく学友会となることを期待するのである。

この折、付加することが許されるならば、将来、万が一困難の事態に直面したときは、創立時の原点に立ち返り、ロータリーの奉仕の理念と同様、他を思いやる心を互いに持ち合せ対処されることを望んでやまないのである。

何はともあれ、当地区米山記念学友会の更なる活躍と発展を祈念し、ここに心より祝意と敬意を送る次第である。



3. 米山記念学友会設立の頃

RI 第 2620 地区パストガバナー（2008-09 年度）

マキタ セイジ

牧田 静二（静岡 RC）

なにぶんにも日時が経過しており、それに最近とみに烈しくなった老人性健忘症が加っているのです。記憶違いがあったらお許し願いたい。

私がガバナーに就任した年（2008～2009 年）の前年、ある地区の先輩パストガバナーから「当地区は米山記念奨学生学友会組織の設立が遅れている。できたら君の年度での設立を考えたらどうか」とのアドバイスをいただいた。そんな含みもあって地区の米山記念奨学委員会の委員長には私のガバナー補佐時代の同期生で親しくしていただいていた小野毅さん（三島 RC）に、また副委員長の坂本茂晴さん（甲府シティ RC）をお願いをした。小野委員長をはじめとする同委員会の委員の皆さん、それに学友会の初代会長の顧壽智さん（中国／1995～97／浜松 RC）たち学友会メンバーのご努力により着々と準備が進み、2009 年（平成 21 年）3 月 1 日には創立総会を迎えることになった。

そして、来賓として、板橋敏雄米山記念奨学会理事長を東京からお迎えして盛大に開催

した。実は、国内 34 地区のうち、当時学友会の組織がなかったのは当地区のほか、1 地区だけであったから、板橋理事長は遅れていた当地区の学友会の設立を殊の外、お喜びであった。

また、その席上、学友会の事務局をどこに置くかで困っていたところ、当時米山梅吉記念館の館長であった故坂本豊美パストガバナーからご発言があり、学友会事務局として記念館の事務所の一部を提供して下さることとなり、一同感激したことを鮮明に覚えている。

「米百俵の話」ではないが、教育や人材育成への投資はロータリーにとってもたいへん有益な効果をもたらすもので、卑近な例で申し訳ないが、田辺信宏静岡市長のように、ロータリー財団留学生としてイギリスに留学したことを縁として、「今日の自分のあるのはロータリーのお蔭」と宣伝して下さる方もあるわけで、力強いかぎりである。

米山記念学友会が発足して 5 年。まだまだ若木であるが、これからずんずん成長して立派な大木となることを期待して擲筆する。



4. 第 2620 地区米山記念学友会に寄せて

2009-10 年度地区米山記念奨学委員会委員長

サカモト シゲハル

坂本 茂晴（甲府シティ RC）

米山学友会設立 5 周年、おめでとうございます。

勝山國太郎アドバイザー（パストガバナー、静岡東 RC）のご指導のもと 2007～08 年度渡邊富夫委員長（長泉 RC）、2008～09 年度小野毅委員長（三島 RC）の委員会メンバーと学友会設立準備メンバーと何回も会議を重ね設立できました事、今もって感慨深いものがございます。

今現在も地区内で、学友会メンバーによる年間通しての委員会や奨学生への手助けや自主企画イベント等のご活躍に大変喜んでおります。

私の委員長年度の時も、当時の飯田ガバナー、長久保地区幹事、勝山アドバイザー、中山エレクト、金原次期地区副幹事、委員会メンバー 5 名のもと 32 名の奨学生候補から 13 名の新規奨学生を選考いたしました。すべての奨学生候補は、真摯な態度はもちろんのこと熱い真剣な眼差しを強く感じ、面接選考にとても苦慮いたしました。

飯田年度の地区大会においても当時の現役奨学生スモドゥ・スローチャナ・クレ・ナーワラゲさん（スリランカ／2008-10／甲府シティ RC）とラシタ アサンカ エリーヤワさん（スリランカ／2006-07／甲府南 RC、学友会理事）に現況とこれからのロータリーの関わりについてスピーチをいただきました。またホーム

カミング制度により中国ハルビン市より里帰りしている艾曉庸さん（中国／2000-01／甲府南 RC）は、期間奨学生当時のお話と現在の活躍ぶりをスピーチしていただき、これからの将来に向けて、有意義なロータリー米山記念奨学事業のアピールすることができました。

学友会メンバーには、新規奨学生選考会（受付）、奨学生オリエンテーション、研修会、期間終了式、地区大会に於いても、懸命にお手伝いをしていただきその節は本当に助かり感謝しております。

奨学生を終了すれば必然的に地区の学友会に入会して、現役の奨学生や地区委員会など何かにつけ交流が最も大切だと思います。

これからも学友会のご発展、ご活躍されます様、心よりお祈り申し上げます。



5. 米山記念学友会5周年に寄せて

RI 第 2620 地区パストガバナー（2010-11 年度）

ナカヤマ マサクニ

中山 正邦（浜松南 RC）

第 2620 地区米山記念学友会設立 5 周年、誠におめでとうございます。各国より日本に留学され、更に選抜された皆さん、勉学や生活習慣の違いで戸惑う事も多々あったでしょう。

遠く国を離れて生活する事は、大変な苦勞の連続でしょうが、少しでも毎日の生活面での負担を、金銭的に軽減しようとしたものが、公益財団法人ロータリー米山記念奨学会の制度であります。単に経済的な支援でばかりでなく、世話クラブ、カウンセラー制度を設けて、奨学生の精神面のケアを図り、親善交流を通じた国際理解を推進する事業で、ロータリーでも大変重要視した活動です。

特に毎月 1 回、世話クラブの例会出席時に様々な交流を通じて国際理解を深め、又、卓話等により母国の話を伺えるなど、例会の楽しみのひとつです。

皆さんが、単に学校という狭い範囲の中での活動ばかりでなく、ロータリーを通じて、日本の社会を理解したり、ロータリーの奉仕の心に触れて、人間的に成長してゆく姿を見る事は私にとって大変うれしい一瞬です。

浜松南 RC は、毎年の様に世話クラブを引受け、お手伝いさせてもらっておりますが、私がガバナーを勤めた 2010～11 年度には、富士山の世界文化遺産登録を目指し、川勝静岡県知事や、多くのロータリアンと共に、学友の皆さんも一緒に富士登山をして、山頂で手を繋ぎ、この事業に協賛いただいた事、大変感謝しております。お陰で、2013 年には見事、富士山の世界文化遺産登録も決定され、大変

喜んでおります。

当年度は、モンゴルから来て静岡大学大学院情報学部研究科で情報社会学を専攻するオトゴンドワー・アリウンズルさんの世話をしております。

彼女は、日本語も大変上達し、生活を楽しんでいる様ですが、先頃、修士論文の研究で「日本とモンゴル両国の相互意識の相違から、どの様にすれば、更なる交流がスムーズに行くか」を題材にしたアンケートをロータリアンに求める調査がありました。日本人のもっているモンゴルのイメージや、モンゴル観、又、モンゴル人のもっている日本のイメージや日本観を通じて、どの様にすれば理解を深める事ができるかとの研究です。

我々ロータリアンの意識調査を通じて、彼女の研究論文がより質の高いものとなる事を期待しておりますが、是非まとまったら一度読みたいものです。

米山奨学生は、青春の多感な一時期を勉強ばかりでなく日本で培った知識や経験、更にロータリアンとの交流など、生涯忘れる事ができない思い出となるでしょう。

今一度この事業の意味を理解され、日本との相互交流理解を通じて、両国の発展へ繋げる一石となる事を期待してやみません。



6. 2620 地区米山記念学友会設立 5 周年を祝して

2011-12 年度、2012-13 年度地区米山記念奨学委員会委員長

エンドウ イチロウ

遠藤 一郎（山梨中央 RC）

米山学友会設立 5 周年、おめでとう御座います。

私は積惟貞パストガバナー（2011～2012 年度）、高野孫左エ門パストガバナー（2012～2013 年度）の 2 期、2620 地区ロータリー米山記念奨学委員会の委員長を務めました。

2620 地区学友会が、設立をして早 5 年が経過したかと思いと感無量です。

積 PG 年度では、奨学生・学友担当委員を小野毅（三島 RC）委員になって頂き、富士山清掃、地域社会との交流、親睦忘年会、そして地区大会では奨学生のお国自慢・お茶サービスへの協力など、多面にわたり活動をして頂きました。

高野 PG 年度では、奨学生・学友担当委員を渡邊富夫（長泉 RC）委員になって頂き、清掃

活動、地域社会との交流、終了奨学生の送別会、地区大会への奨学生のお国自慢・お茶サービスへの協力などして頂きました。また、2013 年 2 月に行なわれた東日本震災被災地への復興祈念植樹事業は大きな印象の残る事業で、皆様の活動を多くのロータリアンに印象づけた事業になりました。

ただ、私は委員長を 2 期務めました、学友会の皆様の活動拠点が静岡だったことから、参加することが出来ず申し訳なく思っています。

私が委員長を務めた 2 年間の学友会の活動は、大きな実績を残し、2620 地区の各クラブに印象づけました。今後も上野佳子会長をリーダーとして、学友会の皆様が活躍してくれることを期待します。



7. RID2620 米山記念学友会設立5周年のご祝詞

RI 第 2620 地区 2013-14 年度ガバナー

シ ダ ヒロアキラ
志田 洪 顯 (静岡 RC)

米山OBの皆様が学友会を組織していることは地区役員ノミニーの立場になって初めて知りました。私のホームクラブはもう何人の米山奨学生を受け入れてきたのかな、あの人たちは今はどうしているのかな、と思ったとき、学友会はいいな、情報があるかもね、と考えます。学友会の皆様も同じでしょうね。奨学金を支給されている間は奨学会の行事も多く、連絡を取り合うが、支給終了と同時にご縁が薄くなる、忘れてしまう。さすがに少し寂しいね、不義理だね。学友会がある？入ろうか、入りましょうよ。私はこれで学友会の十分な存在意義があると思います。

日本人は必ずどこかの学校の同窓会に属しています。死ぬまで属しています。会費を支払うかどうかは別です。私は特に弱い人間でして、小学校、中学、高校、大学、すべての同窓会に所属して、またお手伝いしています。大学の学部の会と部活のOB会だけは会費を払わず出席もしません。なんの理由もないのですが、なぜかそうになってしまいました。恐ろしいことにロータリーの友にガバナー志田洪顯の名前が載ったとたんにOB会会長から葉書が来ました。いずれ近いうちに会費を取られそうです。関西の会ですからOB会に出席できないことが判っていながら会費を払うのはばかばかしいとも言えますが、そんなものです。

会費はなんのため？現役の諸君を助けるためが基本です。また自分たち会員の連絡費であり、会合費でもあります。とは申せ、いずれの会でも実際には会費が集まらずお手伝いには苦勞します。

米山学友会の皆様はいかがですか。我々日本人と全く同じではなくとも、やはり母校の恩義に報いる気持ちは持つでしょう。米山学友会の皆様が現役の米山記念奨学生に経済的でなくとも心身のサポートをしてあげようと考え、サポートできるメンバーに協力するための会費を追加してくれたならどんなに素敵なことでしょう。そして卒業生は皆さん優秀な面々です。これから相互に切磋琢磨が続くでしょうから、卒業後のこれからこそ学友会から得るメリットが大きくなります。会費を払っても値打ちのある会、地区米山学友会がそんな発展を遂げられることを期待しています。いずれは学友会員がロータリアンになって欲しいですね。Eクラブなら東京に既にあります。衛星例会クラブを作ることも可能ですが、学友会の意欲にかかっています。



8. 米山記念学友会設立 5 周年祝辞

長泉 R C 2013-14 年度会長

ワタナベ ヒサオ
渡邊 富夫

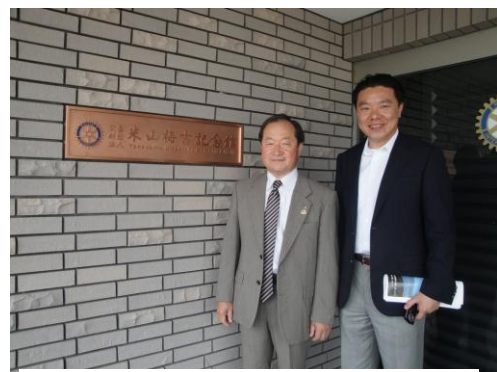
RI 第 2620 地区米山記念学友会が創立 5 周年を迎えられましたこと、心よりお喜び申し上げます。創立時に学友会担当委員としてお手伝いすることができましたこと光栄に存じます。将来に向け飛躍するための節目となる 5 周年ですが、その足跡はとても価値のある 5 年間だと思います。

まったく姿かたちのなかった学友会を、設立の趣旨から皆で考え、仲間を集め、会則および運営方針、役員構成、将来を見据えたルール作りなど組織及び基本事業方針を定められた、顧壽智初代会長のご苦労は大変なものだったと思います。また、設立時に未完成だった細かいルール及び組織を、実情に合わせて構築し直した沈崗（中国／2001-03／東京芝 RC）二代目会長の能力も素晴らしいものでした。さらに、その基盤を礎にして、会員と共に学友会事業を軌道に乗せ、発展途上国の子供たちへの学業支援、他地区学友会との交流事業、東日本大震災支援事業など、事業を発展させてこられた上野佳子三代目会長の手腕には目を見張るものがあります。さすがに米山記念奨学生として選ばれた皆さんは素晴らしい人達ばかりです。

米山記念奨学事業は日本で学ぶ外国人留学生を支援するとともに、日本をよく理解していただくために設立され、留学生とロータリーの相互理解に力を入れています。米山

学友会は相互理解の輪を広げるため奨学期間だけにとどまらず、長期的に多国籍の学友生同士が交流を深めることにより、ロータリーの目的にある「世界的な親交によって、国際間の理解と親善と平和を推進すること」をまさしく実践しています。

同一文化圏だけの組織では新たな発見を生み出すことは難しいが、異なる文化のもとに育った学友会の会員が相互理解で結ばれ、団結して困難に立ち向かうとき、今までにない新たな創造が生まれてくるのを、私は静かに見守ってきました。米山記念学友会創立 5 周年を礎にして新たな世界を創造していくためには、米山学友としての絆と、お互いを認め合う寛容の精神が必要です。長期的展望に立ち時間をかけてしっかり話し合い、一步一步着実に歩んでいかれますことをご祈念申し上げます。



米山学友 蔡飛さん(右)と一緒に

9. 学友会創立5周年に寄せて

2013-14 年度地区米山記念奨学委員会 学友会担当委員

オ ノ タケン

小野 毅 (三島 RC)

まずもって上野佳子会長のもと、多くの学友会のメンバーとともにこうして創立5周年を迎えられましたこと、心からお祝い申し上げます。

私は、5年前の3月1日に学友会を立ち上げたときのロータリー米山記念奨学委員会の委員長に就いておりましたので、創立総会を迎えるまでの多難を皆さんとともに乗り越えた貴重な経験の数々を生き生きと記憶しております。

今でこそ日本全国はもちろん海外にも学友会組織があり、奨学期間を終了したのちも安心して奉仕活動が続けることができますが、その当時は確か全国に3地区で学友会が存在しない状態でした、その年のロータリーの友7月号に青森地区で学友会が結成された記事を読み、非常な危機感を募らせたそれはもたもたしていると最後の結成地区になってしまうからです、そこで渡邊富夫氏（現長泉 RC 会長）とともに学友会創立に向けて準備を始めたのが走馬灯のごとく甦ってきます。

そしてこの5年間小生、学友会と一緒に行動させて頂き、皆さんのお手伝いできたことを誇りに思います。

取り分けても上野佳子さんが会長就任（2012年7月）してすぐに「東北大震災の復興支援活動に何かお手伝いできることは」との素晴らしい提言、渡邊富夫氏と相談したところ、即決した結論は「三島 RC の山岡修一氏が最も適任、リードを願おう」。

その年の年次大会（11月18日）の席上、会長を山岡氏に紹介、その場で事業の概略が決定した、山岡修一氏は国内外に幅広いボランティ

ア活動をされている方で、東北大震災直後から救援活動に入りその実績は枚挙にいとまがない。

上野会長の希望は山岡氏の協力で即実現への道が切り開かれました、それは D2520 山田 RC、御蔵山「鎮魂と希望の鐘」の広場に河津櫻2本を復興祈念植樹するという大きな柱を打ち立てて頂きました、しかも話が持ち上がって（2012年11月）間もなくの2013年2月9日に行なうという企画です。植樹のタイミングはその樹が冬眠しているときに最適で翌春の目覚めは新しい環境で芽生えるとの山岡氏の解説で、河津櫻の苗木の用立てから山田 RC はじめ 2520 地区ガバナー、学友会、そして被災地視察の現場との連絡の全てが瞬く間にスケジュールされ、米山学友会、奨学生多数でこの事業を達成しました。

そして話はそこでとどまらず、翌年2014年4月12日に御蔵山を再訪問し、まだ固いが明日、明後日は確実に花開くであろう予感の河津櫻が立派に根付き成長していることを確認でき、併せて山田 RC、大槌 RC の方々、学友会の里見夫妻、PG の田口夫妻とも交歓できました。

我が D2620 の学友会活動はこの事業を達成したことで大きな自信を得たと確信します。また山岡氏という超ど級のボランティア活動家との出会いで多くの貴重な経験を学び得たことも財産になりました、今後も高い視野で活動を発展させていくことを祈念しお祝いの言葉とします。



10. 鎮魂と希望の桜 被災地に植樹

ヤマオカ シュウイチ

山岡 修一（三島 RC）

「学友会が被災地に桜を植えたいので相談に乗って欲しい」と、2012. 11. 18 の地区大会の時、小野毅委員（三島 RC）から上野会長を紹介された。

私たちは『伊豆の桜を被災地へ＝復興祈念植樹＝』のプロジェクトを立ち上げていた。河津・熱海桜は伊豆では 2 月初旬に咲き始める。桜前線が 1 ヶ月遅い東北でも 3 月には咲いてくれるだろう。震災の 3 月 11 日、一輪でも咲き始め、癒しと勇気を届け、成長と共に復興が進むことを祈念しての事業で、5 年で 1000 本を目指していた。

支援活動で 3 回岩手県山田町を訪れた時、案内下さった盛岡北 RC の田口良一 PG、奥様の絢子パスト会長に学友会の話相談すると、山田町の御蔵山はどうかとの返事をいただく。

この場所は山田 RC が贈った震災で焼失した駅舎の屋上の R マークの時計が保存され（田口絢子さんのご尽力による）、また田中作次 RI 会長が揮毫された『鎮魂と希望の鐘』が建立されている山田湾と被災した町を望む丘だ。

11/26 田口ご夫妻と山田 RC を訪問し、どの位置に植えるかを定める事ができた。更に、当地区の学友が行くので 2520 地区（宮城・岩手）の学友との交流をお願いすると心よく企画下さり、2013. 2. 9～11 の日程が決まった。参加する学友が被災地を視察する研修も大事な項目として日程に組み込んだ。

2/9 朝日に輝く富士山を見ながら三島で集合。仙台市若林区荒浜にて慰霊焼香する。松原はなぎ倒され枯れ、内陸 2km まで家の土台しか残っていない姿は、いつ来てもおかしくない東海地震の静岡の沿岸都市の被害を想像せざるを得なかった様だ。

仙台のホテルでは小野寺則雄 G も出席下さり、交流会が催され、高野孫左エ門 G のメッセージを渡邊富夫委員（長泉 RC）が代読、里見青児学友会長に上野会長から河津桜 1 本を贈られた。（当地区米山学友と奨学生 12 名、ロータリアン 4 名）

2/10 雪が積る峠を越え 100km、山田 RC の会員が待っている御蔵山に着き、田口絢子さんから時計の保存、鎮魂と希望の鐘が建てられた経緯の説明をいただき、植樹を行なった。静岡から持ってきた桜は濃いピンク色の花が咲き新芽も伸びており記念（祈念）写真を沢山撮ってと呼びかけており、「鎮魂と希望の桜」となった。



その後、大槌町庁舎で慰霊焼香。ロータリアンの女将でお客を避難させながら未だ行方不明の「ホテルはまぎく」の再建現場を視察、内陸 600m に漂着した漁船に驚きながら気仙沼に泊る。



2/11 南三陸町防災対策庁舎で慰霊焼香し、ボランティアセンターで被災時から復興の険しい道を局長にプレゼンテーションを頂き帰途についた。

今年も桜がどうなっているか確かめようと 4/12～13 に学友と奨学生 9 人、ロータリアン 5 人（大槌町に支援を続けるせせらぎ三島 RC 3 人）が山田町を再訪した。今回も田口ご夫妻、里見ご夫妻も同行下さった。

例年に無く冬が厳しかったが 2 本の桜はしっかり根付いており、明日には咲くだろうという沢山の花房が待っていてくれた。



大槌 RC は被害が大きく休眠状態だが、田口ご夫妻も早く復活してほしいと、山田 RC との合同例会を企画してくれていた。大槌 6 人、山田 10 人が再建成った「はまぎく」に集い、最初に志田洪顕 G の励ましのメッセージが紹介され、総勢 34 人の楽しい懇親会となった。大槌の方々は「遠くから励ましに来て下さりありがとう」と語り、復活が近い事を感じることができた。



翌日は釜石、大船渡、陸前高田の奇跡の一本松を視察、世界遺産の中尊寺（金色堂）を参拝し東京駅で解散した。

この事業を通して、ロータリアン、クラブは米山記念奨学生、学友と情報をもっと密に交し、共に活動をする事により、国際親善と共生がさらに深まる事を改めて感じ、一緒に活動させていただいた事に感謝しています。

11. 「水を飲めば その源を思う」

2620 地区米山学友会 副会長

シノハラ ショウフェイ

篠原 暁恵（台湾、1985-87 年度、船橋西 RC）

この度、第 2620 地区米山記念学友会が設立 5 周年記念を迎えましたことは、大変喜ばしい事と思います。

私が奨学生になった 1985 年の時代は 1 ドル 360 円で、母国からの送金で学生生活するのは、親に重い負担をかけました。奨学生になれる事は親への経済負担を軽減できるし、その上とても名誉な事でした。私は、奨学金で無事に大学院を卒業でき、その後日本で就職し、現在まで到る事が出来ました！

奨学生の時、将来、機会があれば、自分ができる範囲で社会に奉仕する事を誓いました。

卒業して 8 年の歳月が流れ、平成 5 年（1993 年）に主人の転勤と共に、三島市に定住する事になりました。主人の案内で初めて、長泉町米山記念館を見つけた時の興奮は今でも忘れません！早速、記念館に入り、見学して感謝のお礼をしました。

5 年前、学友会の創立の知らせを頂き総会に出席しましたが、誰にも声をかけられることなく寂しい思いで帰宅しました。きっと初めてでもあり、皆さんも忙しく慣れない作業に追われ、気がまわらなかったからでしょう。しかし、初めて“富士山の清掃”参加の時は、家族を連れ新 5 合目で沢山の学友、ロータリアンの方々に暖かく迎えていただき、有意義な一日を過ごす事が出来ました！

あれから、自分ができる範囲で学友会の行事に参加し、微力ながらお手伝いをしています。台湾のことわざで、“水を飲めば、その源を思う”とあります。今こそ私が恩返しをする時と思っています。それから、新しい学友とともに、良い学友会をみんなで築き、力ある人は力を出し、お金ある人がお金を出し、力もお金もない人は知恵を出し、すべてない人は声を出し、応援してください！学友会は皆さんの参加をお待ちしています。

会報「設立 5 周年記念特集号」に原稿をお寄せ頂いた地区ガバナーを初め、ロータリアン、米山学友、奨学生の皆さんにお礼を申し上げます！

最後になりますが、学友会の創立 5 周年をお祝いするとともに、今後の益々の発展と盛んな交流の機会と社会貢献してゆくことに期待したいと思います。



12. 交流を大切にして更なる未来へ

2620 地区米山学友会 理事

オウ メイエイ

王 明永（中国、2011-13 年度、静岡西 RC）

私は2011～2013年度のロータリー米山奨学生でした。昨年、ロータリー米山記念奨学金のお蔭で大学を卒業して、静岡大学大学院へ進学することが出来ました。中国の農村地域出身の私は、親からの仕送りがほとんどありません。奨学金がなければ、大学院で勉強することは不可能でした。

経済的援助のほかに、世話クラブを通じてロータリアンの皆さまと交流し、生活の支援もしてくれました。ロータリーから受けた恩情は一生に忘れません。恩返しとして、学業に精進して、ロータリアンから奉仕の精神を学び、将来ロータリアンのような人になることを目指します。また、奨学期間が終わっても、ロータリーとのつながりを大事にすることは不可欠だと思います。その一つの方法が、ロータリー米山奨学生たち集まる学友会に参加して、米山学友として交流を続けることです。

奨学期間終了後、私は米山学友会に入会しました。また、学友会理事会メンバーとして、一年間、誇りを持って積極的に学友会の活動に参加してきました。

活動を通じて、学友との交流も深まり、皆さんと親くなりました。ロータリー米山記念奨学生になって、得られたものはたくさんありますが、学友会でできた親友も人生の宝物だと思います。

私は、今年また博士課程に進学する試験に臨んでいます。学友会の先輩から励ましと、たいへん暖かい応援の言葉をいただき、心強くなりました。勉強が忙しくなって、これまでほど学友会活動に参加できないかも知れませんが、心から応援します。これから、他のロータリー地区に移っても、絶対に学友会に入って、RI2620 地区の米山記念学友会と繋がる架け橋になって、より多くの学友と交流できるように頑張りたいと思います。

学友会の皆さん、どうも、ありがとうございました。これからも、宜しくお願いします。



2014 年 4 月「米山梅吉記念館」にて

13. 心を開くことの大切さを学んで

2620 地区米山学友

オウ レイレイ

応 霊麗（中国、2007-08 年度、静岡西 RC）

私は修士課程 2 年生の時、米山奨学生になり、当時 29 歳でした。

その前、私は旅行社の副社長として、働いたこともあり、子供の時からお金に不自由がない家庭で育てられたせいか、例会で奨学金を手渡された時、恥ずかしい、感じました。

父は商売が忙しく、ほとんど家に居なくて、私は父と同じくらいの世代の男性との接し方が分かりませんでした。なので、ロータリーの皆さんともうまくコミュニケーションを取ることができませんでした。良い修士論文を書くため、アルバイトを減らさなければならなかった時、奨学金は私の救いでした。私は初めは、奨学生になって喜びましたが、やがて、例会に出ることのほう怖くなってきました。奨学金を辞退しようかと何回も自分に問いました。そして、半年が経ち、私の卓話の時がやってきました。

私は今まで自分で感じた日本と中国の文化についてお話をしました。卓話を終えると、皆さんから暖かい拍手と励ましの言葉をたくさん頂きました。私は初めて皆さんと楽しく

お話ができるようになって、自分のことについても、気軽に話せるようになりました。

不思議なことに、私がいろいろ素直に話しますと、皆さんといろいろな冗談を言ったり、悩みの相談もできるようになり、例会が楽しくなりました。私は最初から「私に近づかないで」というオーラをどこからか出していたことも、その時初めて気がつきました。

その後、勉強のことや生活のことなど、自分から話せるようになり、ロータリーの社会奉仕活動にも時間がある限り、参加するようになりました。順調に修士の学位を取得し、就職もしました。現在は専門学校で講師として働いておりますが「コミュニケーションとは、自分の心が開かない限り、うまくいくものではない」ことを生徒達にも教えています。私は米山奨学生の一名として、誇りをもって、頑張っています。そして、何よりも、常に感謝する心を持って、人の役に立つことをするように心がけています。

（埼玉県在住）



14. 日本のお父さん、お母さんたちへ

2620 地区米山学友

マイ ホン ティ（ベトナム、2011-13 年度、甲府 RC）

初めて例会に出席したときのこと、私は今でもまだはっきりと覚えています。自分が想像した「例会」とは、数名のロータリアンに対して奨学生が何人かで、学校の話、自分の国の話について語る場なのだと思っていました。しかし、実際には 100 名以上のロータリアンがいる場で、私ひとりだけでした。正直なところ、自分の存在が全然感じられなく、ロータリアンの話もよく理解できず、自分から何を話せばいいのかも分からず、「辛い」と感じていました。

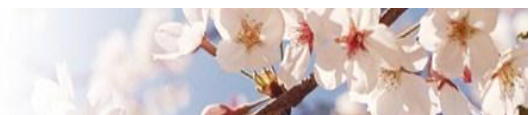
しかし、周りのロータリアンの皆さんがお父さん、お祖父さんのように優しく声をかけてくれたり、「元気か」「学校はどう？」と聞いてくれたり、硬かった雰囲気のを和らげてくれました。毎月一回例会に出て、ロータリーソングを聞き、ロータリアンのスピーチを聞かせて頂き、いつの間にか、私は例会に出ることが楽しく感じられるようになってきました。色々な分野の皆さんの卓話は、もちろん私にはその内容まで全部理解することができませんでしたが、ロータリアンが幅広く交流していることがよく分かりました。

また、ロータリアンの皆さんのお蔭で、色々な体験をさせて頂きました。例えば、サッカーの応援、映画鑑賞、着物の着付けをして頂いた新年会、節分祭の豆まきなど、すべてが私には初めての体験で、いい思い出になりました。

特に、佐々木宏明カウンセラーご夫妻がいつも励まして下さって、日本のお父さん、お母さんのような存在だと思っています。大学卒業式のときも、自分の両親が日本にいませんが、その代わりに、日本のお母さんが一緒に出席してくださって、本当に涙が出るほど嬉しかったです。

そして、甲府を離れ、東京工業大学大学院に入学することになりました。入学式の日、雨の中でも、甲府からロータリアンのお父さんたちが来てくださいました。東京の生活に慣れていない私を「生活も勉強も頑張ってね」と励ましてくれ、まるで自分の父親の言葉そのものでした。言葉で表現できないくらい嬉しかったです。お父さんたちが、東京に出張するたびに、よく顔を逢わせ、ご飯を食べに連れてって来て、甲府のこと、甲府 RC のことをたくさん話してくれました。そして、甲府は私のふるさとのようで、甲府ロータリアンのお父さんたちは私の家族のような存在になっています。これからも、この繋がりを忘れずに、頑張っていきたいと思います。本当にいつも支えてくれて、見守ってくれて、ありがとうございます。

（東京都在住）



15. 日本での思い出を胸に

2620 地区米山学友

リ ウ ェ ャ ン グ リ レ

李 烏雲格日樂（中国、2011-13 年度、浜松東 RC）

帰国してもう8カ月が経ちました。ロータリー米山記念奨学金のお蔭で2013年春に博士号を取得し、現在、中国内モンゴルの大学で先生と研究者として活躍しています。

浜松東 RC で2年間お世話になりました。その間、ロータリアンの皆様の交流、活動、会議を通じて、私には日本の文化、社会のルール、習慣、日本人の真面目な姿、厳しいときの姿と可愛い一面を教えて貰いました。浜松東 RC で一番楽しかったのは毎年のクリスマスパーティーでした。ロータリアンの家族の皆さんと話したり、笑ったり、食事したり、BINGOゲームはとても楽しい思い出です。ロータリアンのとの出会いで愛の奉仕、社会に責任もつという事が分かり、日本と母国の架け橋になる使命感を持ちました。

この2年間、学友会にもお世話になりました。奨学生2年目の時に上野会長の信頼も得て、学友会で監事として活動しました。学友会の先輩達が私達現役生を連れて、いろいろ有意義な活動を企画し実施していました。たとえば、焼津の海岸でごみを拾ったり、タイの子どもに就学支援をしたり、岩手県山田町に河津桜を植える、などです。

学友会で勉強になったのは、恩返しの上にある愛の奉仕でした。学友会の先輩達から「受けた愛と恩を十倍にして社会に返すようにがんばろう」と教えて貰いました。こうしたこ

とは後でその楽しさがわかるようになりました。山田町の「鎮魂と希望の桜」が綺麗に咲き、タイの子どもも学校に通えたようです。中国にいる私は、これらを聞いて感動の気持ちでいっぱいになりました。

大学の先生になって8カ月になりました。いい先生になれるように頑張っています。学生達は日本の漫画、コスプレ、名探偵コナンに、AKB48に、浜崎歩が大好きなようで、よく教えます。日本へ旅行するのはいつが一番いいかとよく聞かれ、「桜を見たいなら春の3月、紅葉なら11月中旬」と答えます。「日本ってどんな国ですか？」とも聞かれます。「町がすごくきれい、空気が美味しい、人がとても優しい、治安が良い、生活するにはとても便利な国です」と教えます。日本の街を歩くときの安心感がまだまだ心の中に残っています。学生達には、「日本をもっと理解したいなら機会があるときに自分の足で感じてみて」と教えます。

これからも米山学友として頑張ります。

（中国在住）



16. いつかミャンマーに日本語学校を

2620 地区米山学友

ティンザーラ（ミャンマー、2012-14 年度、静岡西 RC）

今年の3月に順調に大学を卒業できました。やっと自分が日本の大学を卒業したという達成感、しかも米山奨学生として卒業したという誇りに喜びが湧いてきました。そしてある先生の「私たち、この教室で楽しく授業してきましたね。」という話に涙が出て、大学生活が今日で終わるという寂しさを感じました。

また、静岡西ロータリークラブの最後の例会に出た時も、なんとも言えない寂しさでたまらなかったのですが、大橋章男会長の「静岡にずっといるなら、時々例会に出て」という話に寂しさが少しおさまりました。そしてその時は結婚したばかりということもあり、主人も出席し、お礼の話をさせて頂きましたが、ロータリーの皆さんは、自分たちが見守ってきた留学生の結婚に安心し、さらに大学を無事に卒業したことを喜んでくれているようでした。2年間ずっと米山奨学生を後ろから色々支えてくださったカウンセラーの加藤博一さんも喜んでくれたと思います。

2009 年に来日し、日本語学校に入ってから大学を卒業するまでの5年間の生活を振り返ってみると、日常生活の中でたくさんの方（日本人）にお世話になり、特に大学の保証人さんやロータリークラブの方々の支えがあったからこそ大学を卒業できたのだと思います。

2012 年に米山奨学生として採用され、加藤博一さんから、奨学生をクラブで預かると申請して頂いたことは本当に幸運なことでした。米山の奨学金は、私の学生生活を支えてくれただけではなく、両親や大学の先生たち、そして大学の保証人さんの誇りにもなっていました。

大学を卒業したのに就職をせず、結婚を決意したことで、米山の奨学生として両国の架け橋になりたいという自分の目標はまだ達成できず、米山への恩返しができている悔しさがあります。いつかは私の目標通りにミャンマーで日本語学校を作って日本とミャンマーの架け橋を作ろうと考えています。



17. 福島で学んだことを心に

2620 地区米山学友

イ ウヨン
李 優英 (韓国、2013-14 年度、甲府シティ RC)

私は2013年ロータリー米山奨学生に採用していただいた。その後、一年間ロータリアンの皆様の支えで、留学の第一の目的である勉学に励むことができ、今年の3月無事に大学を卒業することができた。

ロータリー米山奨学会の奨学制度は他とは違い、お金での支援だけではなく、例会や様々な活動に参加させていただきながら、ロータリアンの奉仕の精神や国際親善、異文化理解の心、社会貢献、他人への心配りなど大学では学べないことを学ぶことができた。そして、自分自身を振り返ってみると考えさせられることも沢山あった。

一番印象に残るのは、甲府シティ RC と所沢中央 RC の合同例会で福島を訪れたことである。東日本大震災の時は韓国にいたので、テレビのニュースでは見たが、実際に目にした被災地の悲惨な様子は大変衝撃だった。駅や家などが流されている悲惨な状況から、恐ろしい災害に遭われた被災地の人々の悲しさが心の中に伝わってきた。

それまで地震や放射能など本当に大丈夫かと自分自身の安全、自分のことばかり心配していた私が馬鹿のように感じられた。福島では周りの人や他人を察すること、心遣いが非常に大事なことを感じさせてくれた。

また、被災地でつらい思いをしながらも、一所懸命生活している地元の人や山梨県に移住している人々を見て、一刻も早く復旧

して災害に遭われた人々の笑顔が見られるようになってほしいと思った。

私は今年の3月に帰国して、韓国の学校や高校で日本語教師になるために韓国の大学で、教育学を勉強している。4月には、ソウルの母校で教育実習もした。

実際の日本語教師になるには、まだ勉強しなければならないことがたくさんあるが、一年間米山奨学生として様々な活動に参加させていただきながら、学んだこと、感じたこと、気づいたことが生きていくうえで大事なことで、有意義なことだと思った。これこそ大きな勉強であり、将来の財産になる宝物だと思う。これからも米山奨学生として経験したすべてのことを忘れることなく、ちゃんと意識しながら夢を目指していきたい。

また、日本語教師になってからも、ただ日本語を教えるだけではなく、日本で体験した日本文化を伝える文化大使の役割も果たしたいと思うし、さらに世の中を偏見無しで客観的に見られる人、異文化コミュニケーションに意欲をもって活躍できる人を沢山育てたい。その人たちが国際社会で平和のための奉仕や社会貢献できるようになってほしいと思う。

そして、私自身もロータリアンの皆様を見習って、世界平和のために国際社会で奉仕できる人、社会貢献できる人になりたいと思い、どんなことでも一所懸命頑張りたいと思う。

(韓国在住)

18. 遣唐使のような架け橋に

2620 地区米山学友

サイ ケン

蔡 遣（中国、2013-14 年度、パワー浜松 RC）

私は、この 3 月に米山奨学生としての生活を終え米山学友会の一員になりました。4 月中旬頃、学友として初めて学友会のイベントに参加しました。東北被災地復興祈念植樹事業で、1 泊 2 日で岩手県の被災地を訪問してきました。短い期間でしたが地元のロータリアンや米山学友の皆様といろいろと交流することができました。自分にとって、大変勉強になり、有意義な二日間を過ごしました。

今回のイベントを通して、私も色々なことを感じました。あの痛々しい日からもう三年が経ちますが、被災地では、多くの方々が今もなお仮設住宅などでの生活を余儀なくされています。被災地の生活やまちづくりなどは今でも大変だそうです。

そのことを自分の目で見ていて、「自然災害に、われわれ人間は弱い生き物だなあ」としみじみ思っていました。しかしその後、陸前高田市気仙町の高田松原跡地にある「奇跡の一本松」を見た時、その考えが変わりました。津波の直撃を受けても、揺るぎなく立ったままの状態が残ったことで、大変驚きました。まさに震災から復興への希望を象徴していると同時に、この樹はただの樹ではないと思います。この素朴さ、厳粛さ、堅固で屈服しない強さが、少なくとも東北地方の方々の人格を象徴しています。今の被災地はまだまだ大

変ですが、いつの日か、きっと良くなると私は信じています。

振り返って、米山記念奨学生としての一年間、経済的な支援以外にも、世話クラブの方々から沢山の愛情や激励を頂きました。カウンセラーは「奨学生としての生活が終わっても、何か困ることがあったら、いつでも連絡してね」と優しく言って下さいました。皆様のお蔭で、パワーアップした私は今、新しい大学院で勉強しています。これからも、ロータリーへの恩返しのために、自分の学業に専念しながら、国際交流活動やボランティア活動に積極的に参加していきたいと思います。

周りの人と固い「絆」を結ぶ事ができるように、親善交流において、自分ができることからやっていきたいと思っています。私の名前は「^{つか}遣わす」の意味である「遣」と言う字を使っていますが、昔の遣唐使のように日中の架け橋になれるよう、何事にも挑戦していきたいと思っています。



19. 活動を通じて広い視野をもつ

2620 地区米山奨学生

ファン ウェイタ

范 偉達（マレーシア、2013-15 年度、三島 RC）

私は昨年からロータリー米山奨学生になることができ、大変嬉しく思っているとともに、心から感謝しております。日本に留学してから、考え方やモノの見方などが変わりましたが、ロータリー奨学生になり更に変わることができました。何故かという、様々な分野で活躍し、成功された多くの世話クラブの方々との出会いが私の視野を広げて下さったからです。学生という立場と時間を使って様々なことに目を向け、実際に行動しようと思うようになりました。

私は東日本大震災のボランティアから帰ってきた後、その経験を活かそうと思い大学で国際協力・地域開発のゼミナールに入りました。このゼミナールでは、キャンパスのある三島と世界とに関わることができ、そして貢献できることが魅力的でした。実際にイベントや研修を通して行動範囲が広がり、多くの出会いがありました。

地域開発においては、三島の食品会社とのコラボレーションで商品開発をし、各地で行われるイベント等でPR活動も兼ね販売いたしました。企業の方々や三島に住んでいる方々、農林水産省の方などとの出会いがあり、多くのことを学びました。また販売で得た利益を発展途上国の支援金に使っていることを紹介し、お客様が購入してくださる姿を見て、世界は繋がっているのだな、と実感し嬉しく思

いました。そして国際協力においては、主にフィリピンとカンボジアのスラム街の支援をしており、昨年の夏休みに実際に現地へ足を運びました。スラム街の中でも貧富の差があることや、内戦によって怪我をした子供もいて、心が痛みました。現地へ行くまで私たちは想像に任せて、支援の計画を立てておりましたが、実際に現地を見て触れ合うことで、何が必要なのか、どうすべきかを深く、よりの確に考えることができました。そして何よりも現地の子供たちの素敵な笑顔が忘れられません。

私は東北震災のボランティアやゼミナールの活動を通して、実際に行き、自分の目で見る、触れ合うことの大切さと素晴らしさを知りました。そしてこの経験ができたのは、世話クラブの方々の影響と、ロータリー奨学金のおかげです。あと一年の学生生活では更に視野を広げ、多くの出会いや経験をして、来年からの社会人生活に活かしたいです。



20. 学友会5年間の活動記録

(1) 活動年表

時期	活動(場所)	ガバナー年度
2009年3月1日	設立総会(静岡市、クーポール会館)	牧田P G
7月12日	第1期通常総会(米山梅吉記念館)	飯田P G
9月26-27日	「富士山清掃奉仕活動」と懇親会(富士宮市)	
10月25日	静岡西RC「大谷崩れにて記念植樹」に参加(静岡市)	
2010年3月6日	米山奨学生期間終了式、業務補助	
5月9日	新規米山奨学生オリエンテーション、業務補助	
7月11日	第2期通常総会(長泉町福祉会館)	中山P G
8月8日	「富士山つながりの日」登山イベントに参加	
11月14日	地区大会、お国自慢/お茶サービス(浜松市)	
12月25日	米山奨学生・カウンセラー研修会(静岡第5～7分区) クリスマスパーティー(浜松市)	
2011年1月8日	米山奨学生・カウンセラー研修会(山梨第1～4分区)	
1月12日	米山奨学生・カウンセラー研修会(静岡第1～4分区)	
1月30日	次年度奨学生選考会(面接)、業務補助	
3月6日	米山奨学生期間終了式、業務補助	
3月23日	「東日本大震災義援金」送金	
5月8日	新規米山奨学生オリエンテーション、業務補助	
7月10日	第3期通常総会(米山梅吉記念館)	積P G
11月20日	地区大会、お国自慢/お茶サービス(沼津市)	
12月17日	クリスマスパーティー(浜松市)	
2012年1月29日	次年度奨学生選考会(面接)、業務補助	
3月3日	米山奨学生期間終了式、業務補助	
5月13日	新規米山奨学生オリエンテーション、業務補助	
6月16-17日	親睦交流合宿(静岡市)	

時期	活動(場所)	ガバナー年度
2012年7月8日	第4期通常総会（米山梅吉記念館）	高野 P G
9月17日	海岸清掃奉仕活動と親睦 BBQ（焼津市）	
10月12日	9月終了奨学生の送別会（浜松市）	
10月21日	米山奨学生・カウンセラー研修会、業務補助	
11月18日	地区大会・お国自慢/お茶サービス（甲府市）	
12月11日	タイ子どもへ就学支援開始（ダルニー奨学金、3年間）	
2013年1月27日	次年度奨学生選考会（面接）、業務補助	
2月9-11日	東北被災地復興祈念植樹事業（宮城・岩手）	
3月2日	米山奨学生期間終了式、業務補助	
5月12日	新規米山奨学生オリエンテーション、業務補助	
7月7日	第5期通常総会（米山梅吉記念館）	志田 G
8月24日	「富士山絆の日、清掃奉仕活動」に参加（富士宮市）	
10月20日	米山奨学生・カウンセラー研修会、業務補助	
11月16日	静岡県地震防災センター見学、親睦昼食会（静岡市）	
2014年1月26日	次年度奨学生選考会（面接）、業務補助	
2月9日	地区大会・活動報告展示/お茶サービス（静岡市）	
3月1日	米山奨学生期間終了式、業務補助	
4月12-13日	東北被災地復興祈念植樹事業（岩手県再訪問）	
4月20日	新規米山奨学生オリエンテーション、業務補助	



(2) 写真

設立総会から第5期通常総会まで



地区大会への参加、ボランティアなどの奉仕活動、親睦交流など





米山記念奨学生のオリエンテーションから期間終了式まで



(3) 歴代理事会役員一覧

設立～2010 年度

会 長	顧 壽智（中国）
副会長	ラシタ A. エリヤーワ（スリランカ）
副会長	応 霊麗（中国）
理 事	伊 紅（中国）
理 事	チャリット ペレーラ（スリランカ）
理 事	楊 悦（中国）
理 事	蔡 飛（中国）
会 計	王 燕芳（中国）
会 計	羅 佳（中国）
監 事	沈 崗（中国）
監 事	崔 曉冬（中国）
監 事	渡邊 富夫（長泉 RC）

2010～11 年度

会 長	顧 壽智
副会長	応 霊麗
副会長	沈 崗
理 事	伊 紅
理 事	俞 新民（中国）
理 事	楊 悦
理 事	国仲 智（中国）
理 事	チャリット ペレーラ
理 事	蔡 飛
会 計	王 燕芳→上野佳子（中国）
会 計	グエン・ホン・フーン（ベトナム）
監 事	崔 曉冬
監 事	ラシタ A. エリヤーワ
監 事	渡邊 富夫

2013～14 年度（現在）

会 長	上野 佳子	理 事	シャー アラム モハammad（バングラデシュ）
副会長	篠原 曉恵	理 事	王 明永（中国）
理 事	楊 悦	会 計（兼）	篠原 曉恵
理 事	栄 翌	監 事	崔 曉冬
理 事	金 相均（韓国）	監 事	小野 毅

2011～12 年度

会 長	沈 崗
副会長	国仲 智
副会長	上野 佳子
理 事	伊 紅
理 事	俞 新民
理 事	チャリット ペレーラ
理 事	宋 安娜（中国）
理 事	栄 翌（中国）
会 計（兼）	上野 佳子
会 計	崔 曉冬
監 事	蔡 飛
監 事	楊 悦
監 事	小野 毅（三島 RC）

2012～13 年度

会 長	上野 佳子
副会長	沈 崗
副会長	崔 曉冬
理 事	国仲 智
理 事	チャリット ペレーラ
理 事	プロタープ ダス（バングラデシュ）
理 事	栄 翌
会 計（兼）	沈 崗
会 計	篠原 曉恵（台湾）
監 事	楊 悦
監 事	李 烏雲格日樂（中国）
監 事	渡邊 富夫



学友会事務局：

〒411-0941

静岡県駿東郡長泉町上土狩 346-1

公益財団法人 米山梅吉記念館 内

Tel：055-986-2946

Fax：055-989-5101

Mail：yumh@ai.tnc.ne.jp



第 2620 地区米山記念学友会

検索

本号編集担当者 上野佳子